

**プロジェクト名：マングローブ植林計画**  
(調査期間：2000年3月～48ヵ月、担当業務：植林)

**調査背景**

オマーン国は生物多様性保全と持続的な開発の共栄を目指し、国内の環境保護行政に力を入れており、マングローブはアラビア・オリックスや鳥類などの保護と共に保護対象の重要な資源として位置づけられている。このような中、1996年オマーン国はNational Conservation Strategy (NCS)が承認された。このような背景から、オマーン政府はマングローブの保全・再生のため、植林適地の選定、苗生産のための苗床建設、植林のための専門家派遣を要請した。

**調査概要**

苗床建設は首都であるマスカットのマングローブ自生地の近郊で開始され、その後南部のサララ、東部のスールに順次建設され、年間の苗生産能力は51,000株/年になった。また、マングローブ植林はサワディ、スール、サララなど全国のラグーンで実施され、これまで合計約46,000m<sup>2</sup>で植林がなされたが、このような活動は地域住民の参画のもとに実施された。さらに、各移植地でマングローブの生長と環境(土壌、水質)の関連について調査などを実施した。このような活動は、オマーン人技術者に研修プログラムなどを通して移転された。

**担当事項**

- 苗床建設(マスカット、サララ、スール)
- マングローブ種苗生産とその技術の移転
- マングローブ移植適正地の選定と移植試験
- マングローブ林のベースラインデータの集積
- 地方自治・環境・水資源省における自然環境保全活動に関する助言と提言

